

# 現代中国語「動詞＋名詞＋時間量＋“了<sub>2</sub>”」構造について

A study on “Verb-Noun-time duration words-le<sub>2</sub>” construction in Mandarin Chinese

町 田 茂

Shigeru MACHIDA

# 現代中国語「動詞＋名詞＋時間量＋“了<sub>2</sub>”」構造について

A study on “Verb-Noun-time duration words-le<sub>2</sub>” construction in Mandarin Chinese

町 田 茂

Shigeru MACHIDA

## 1. はじめに

現代中国語では、動作に関わる時間量を表す文法構造として以下の三種が知られている。

(A)式：動詞＋時間量＋名詞

(B)式：動詞＋名詞＋時間量

(C)式：動詞＋名詞＋動詞＋時間量

このうち、(A)は動作の持続時間量を表す文法構造として理解され、時間量表現を補語と認定するのか賓語と認定するのかという点が争点として残されている。一方(B)においては時間量表現が動作の持続時間量を表す場合と動作成立後の経過時間量を表す場合があり、時間量表現の文法機能の認定は(B)式の文法構造そのものへの理解に直結する。(C)式は(A)(B)式との間で一定の言い換えが可能であるが、(B)の時間量が動作成立後の経過時間量を表す場合は言い換えが不可能である。この事実もまた(B)式の文法構造の理解に直結する。本稿は(B)式を中心に現在比較的広く受容されている補語説の問題点を検証すると共に、新たな解釈を提案する。

## 2. 補語説の課題

動詞の後ろに置かれる時間量表現を補語と認定する文法記述の代表例として、まず刘月华 潘文娱 故 輯 2001『实用现代汉语语法（增订本）』（商务印书馆）を挙げることができる。以下はその記述の抜粋である。

(一)表示动作持续的时间。只有表示可以持续、可以反复进行的动作的动词和表示可以持续的状态的形容词才能带此类时量补语。例如：

① 他在路上走了整整三天。

⑦ 去年他在北京住过七天。

⑧ 那盏灯亮了一夜。

时量补语前也可以是一个动宾短语，这个动宾短语都表示一个事件，而不是一个具体动作。此类动宾短语中的动词也表示可以持续的动作，补语表示动作持续的时间。例如：

① 他当大夫十几年了，从来没有出过事故。

② 我们开展这项活动很久了，积累了不少经验。

③ 你服这种药已经三个月了，效果怎么样？

动词还可以重叠，重叠后，表示动作持续的意思更明显。例如：

① 他当大夫当了十年了，都当烦了。

### 宾语的位置

如果动作涉及的事物第一次出现，不说宾语意思就不清楚时，通常要重复谓语动词，宾语位于第一动词后，补语位于第二动词后。例如：

① 我们坐车坐了四十多分钟。

## ④ 我喊你喊了有十分钟了。

如果宾语在上文已出现，或在一定的语境中不说出来所指也清楚时，可以不重复谓语动词，这时宾语有以下几种位置：

(1) 当宾语是表示一般事物或抽象事物的名词时，一般位于时量补语后，补语与宾语之间还可以用“的”，有表示时间长的意味。例如：

① 我今天写了二十分钟(的)汉字。

④ 小明打了一下午的球。

(2) 宾语为表示确定的人的名词、代词时，一般位于时量补语前。例如：

① “是啊，我替小刘一天。”

③ 小马等了你一个小时。

④ 你观察老师这么多年，有什么发现？

宾语为确定的人的名词，补语为“一会儿”、“半天”等不定时量时，可以在补语前，也可以在补语后。例如：

① 你等小刘一会儿吧。

你等一会儿小刘吧。

(二) 表示动作从开始或完成到说话时(或提到的某一时刻)已经有多长时间了。带此类时量补语的，一种是结束性动词，一种是带结果补语或趋向补语的动词。例如：

② 我来北京两年了。

⑤ 姐姐回来一个小时了。

宾语的位置：位于谓语动词后，补语前。例如：

② 我认识老李很长时间了。

(刘月华等 2001：619-623)

また興水優・島田亜美 2009『中国語わかる文法』(大修館書店)は「時間量補語」項で以下のように記述している。

◆「動詞＋時間量補語」の組み立てで、動詞に対する賓語の位置は次のようにまとめられる。

○学一年汉语      △学汉语一年      (中国語を1年間学ぶ)

×等一天他      ○等他一天      (彼を1日待つ)

○等一会儿小李      ○等小李一会儿      (李君を少しの間待つ)

このほかに、賓語が一般の名詞であれば、動詞をくりかえすことで、次のような組み立てができる。

(i) 他学汉语学了[一年]。      (彼は中国語を1年間学んだ)

また、動作量補語に関して述べたように、「記帳式」と呼ばれる、上掲の△“学汉语一年”のような語順がある。この形式は「計数」に重点を置いた表現となる。

(ii) 他学英语[一年]，学日语[两年]。      (彼は英語は1年間，日本語は2年間学んだ)

(興水優・島田亜美 2009：125)

本稿が冒頭で示した(A)(B)(C)の三式に関して、賓語となる名詞が人称代詞であるとき(B)式が多く用いられることはほぼ公認されている。しかしここには、(1)一般名詞を賓語として(B)式を用いる条件として、刘月华等 2001 が示した「動賓フレーズが具体的動作ではなく一つの事件を表す」と興水優・島田亜美 2009 が示した『計数』に重点を置いた表現では隔たりが大きすぎる、(2)(B)式において動詞に“了<sub>1</sub>”を付加する場合と時間量表現に“了<sub>2</sub>”を付加する場合では使用上の制約が大きく異なる、(3)動詞の後ろに置かれる時間量表現を全て補語と扱うことで、同一の文法構造が内包する微妙な意味の差異を軽視することになる、(4)(B)式と(C)式の文法的意味の差異が十分に検討されていない、といった

課題が残されている。こうした問題を検討する手始めとして、以下では(B)式に着目し、特に「動詞＋“了<sub>1</sub>”＋名詞＋時間量」「動詞＋名詞＋時間量＋“了<sub>2</sub>”」の二種に関して、それぞれを用いる条件を検討していくことにする。

### 3. 「動詞＋“了<sub>1</sub>”＋名詞＋時間量」

この文法構造が用いられる大多数の場合において、時間量表現は動作が持続した時間量を表している。そして、賓語となる名詞は特定の事物（多くは人物）を指す。

(1)\*他念了书三个钟头。 (2)我看了张三三个钟头。 (戴浩一 1990: 25)

(3)小马等了你一个小时。 (刘月华等 2001: 621)

(4)你们关了她一夜呀, 也没个说法。(《让爱作主》)

(5)包围了北京两个月。

ここにおいて、“了<sub>1</sub>”は、単に動詞が表す動作の成立や完成を表しているのではない。(2)(3)で表されているのは、“看张三三个钟头”“等你一个小时”という事件の成立・完成であり、時間量が「三時間」「一時間」に達していない場合には、たとえ“看”“等”という動作が成立していても(2)(3)を用いることはできない。こうした事態把握の仕方が、名詞の情報的重要性を低下させ、話し手、聞き手共に指示対象を同定できるだけの資格を有する特定の事物を指す人称代詞・名詞だけが適合できるという結果を招いたものと考えることができる。

この他、刘月华等 2001 が示したように、「動詞＋名詞＋時間量」という語順は動作成立後に経過した時間量を表すことができる。

(6)我认识老李很长时间了。 (刘月华等 2001: 623)

しかし、動作成立後に経過した時間量を表す場合賓語を伴う動詞への“了<sub>1</sub>”の付加は大きな制約を受け、時間量表現も“了<sub>2</sub>”を付加しないと完結した表現としては極めて座りが悪い。従って、「動詞＋“了<sub>1</sub>”＋名詞＋時間量」という文法構造の主な意味機能は、「話し手、聞き手共に指示対象を同定できる特定の事物（多くは人物）を指す人称代詞・名詞を賓語とし、動作が持続した時間量を表す」ことだと理解することができる。

### 4. 「動詞＋名詞＋時間量＋“了<sub>2</sub>”」

この文法構造には、時間量表現が動作が持続した時間量を表す場合と、動作成立後に経過した時間量を表す場合が有る。いずれの場合も「時間量＋“了<sub>2</sub>”」の述語性が強いために「動詞＋名詞」と「時間量＋“了<sub>2</sub>”」の結合が緩く、様々な用法を生むことになる。

#### 4.1 時間量表現が動作が持続した時間量を表す場合

##### 4.1.1 名詞と時間量表現の性質

名詞部分に人称代詞を用いる場合（以下甲類と呼ぶ）、時間量表現は現実には動作が持続した時間量を表す。ただし「数量表現＋“了<sub>2</sub>”」は基準時点までに蓄積された数量を表す機能を有するため、短時間を正確に計測するという目的には馴染まない。

(7)? 王老师等他一分钟了。 (8)王老师等他一个小时了。 (9)王老师等他半天了。

一方名詞部分が人称代詞以外である場合（以下乙類と呼ぶ）、時間量表現は一定の判断の下で提示された概数値で、「動詞＋名詞＋時間量＋“了<sub>2</sub>”」全体が動作主の経験や経歴の世界の事件となる。

(10)王老师教汉语三十年了。

(11)我做这行这么多年了。(《青花》)

(12)哥盼今天很久很久了。

(13)\*王老师等车一个小时了。

(10)における“三十年了”は経歴としての時間量であり、中国語の授業を休息無しで三十年間継続したわけではない。また、(12)における“很久很久了”は多分に主観性を含む概数値である一方(13)における“一个小时了”は客観的に計測できる時間量であり、(13)の容認度は低い。

この文法構造で焦点化されるのは時間量であり、数量表現を名詞に付加して名詞を焦点化することはできない。

(14)\*我等一个人一个小时了。

#### 4.1.2 動詞の性質

乙類には、単独では時間量表現を付加できない動詞を用いることができる。

(15)他在这个厂三十五年了，从钳工到起重工；从车间主任到维修组长。（《福建日报》）

(15')\*他在三十五年了。

この事実は、時間量表現が単に動詞に付加されたものではないことを示している。

#### 4.1.3 時間量表現の前に置かれる語

甲類・乙類の時間量表現の前には、“已经”“快”などを置くことができる。

(16)我喜欢她，喜欢她都快一年了。（《将爱情进行到底》）

(17)我管这栋大楼已经四十多年了。（《豆蔻年华》）

また、ごく稀ではあるが、乙類において時間量表現が“不是”によって否定されることが有る。

(18)质量你尽管放心，我做书又不是一年两年了。（《书惑》）

こうした事実は、「動詞＋名詞」と「時間量＋“了<sub>2</sub>”」の結合が比較的緩いことを示しているものと考えられる。

中国語において「数量表現＋“了<sub>2</sub>”」が述語性を有することは周知の事実である。この述語性が担保される限り、「動詞＋名詞」と「時間量＋“了<sub>2</sub>”」の間にはより緩やかな関係が許されることになる。

(19)茶馆老板自从老头子死后，一个人开着这个小茶馆，快二十年了。（《写给导演者》）

仮に「動詞＋名詞＋時間量＋“了<sub>2</sub>”」という文法構造中の「時間量＋“了<sub>2</sub>”」を時量補語と認定するならば、それは、「動＋名」と「時間量＋“了<sub>2</sub>”」の結合が固くなった場合において認定された文法機能ということになる。

### 4.2 時間量表現が動作成立後に経過した時間量を表す場合

時間量表現が動作成立後に経過した時間量を表す場合、「動詞＋名詞＋時間量＋“了<sub>2</sub>”」という語順が選ばれ（以下丙類と呼ぶ）、動詞に“了<sub>1</sub>”を付加することは避けられる。

#### 4.2.1 名詞と時間量表現の性質

名詞部分には人称代詞、一般名詞、固有名詞などを比較的自由に用いることができるが、持続時間量の場合と同様、数量表現を名詞に付加して名詞を焦点化することはできない。

(20)宋德福同志离开我们一周年了。（福建日报）

(21)\*张三离开一个地方一周年了。

時間量に客観的に計測できる時間量を用いることにも制約は無い。

#### 4.2.2 動詞の性質

動詞は短時間で完成する動作を表すもので、“来、离开、…到”などが多用される。

#### 4.2.3 時間量表現の前に置かれる語

時間量表現の前には、“已经”“快”などを置くことができる。

(22)你进入 NBA 已经六年了。(CCTV《我们》)

(23)转眼间，进大学快一年了。(《福建日报》)

時間量表現の前に“有”を用いることも多い<sup>1)</sup>。

(24)现在，拍完这部电影已经有几年了。(《文汇报》)

さらに，時間量表現を否定することも可能である。

(25)她成为大学生还不到一年。(《表弟》)

以上の事実、時間量表現が動作成立後に経過した時間量を表す場合も「動詞＋名詞」と「時間量＋“了<sub>2</sub>”」の結合が比較的緩やかであることを示している。

#### 5. 甲・乙・丙類と (B) (C) 式の対応関係

これまで考察した甲・乙・丙類と (B) (C) 式の間には以下のような対応関係を認めることができる。

	(B)式：動詞＋名詞＋時間量＋“了 <sub>2</sub> ”	(C)式：動詞＋名詞＋動詞＋“了 <sub>1</sub> ”＋時間量＋“了 <sub>2</sub> ”
甲類	(26)? 王老师等他一分钟了。	(27)王老师等他等了一分钟了。
	(28)王老师等他一个小时了。	(29)王老师等他等了一个小时了。
乙類	(30)*王老师等车一个小时了。	(31)王老师等车等了一个小时了。
	(32)王老师教汉语三十年了。	(33)王老师教汉语教了三十年了。
丙類	(34)王老师来日本一年了。	(35)*王老师来日本来了一年了。

甲類は人称代詞を賓語とし，時間量は現実には動作が持続した時間量である。「数量表現＋“了<sub>2</sub>”」は基準時点までに蓄積された数量を表す機能を有するため，(B)式で短時間を表す(26)はやや不自然である。一方(C)式において“等了一分钟了”“等了一个小时了”はそれぞれ“等了一分钟”“等了一个小时”という事件が基準時点において新事態として認定できることを表しており，(27)の容認度は(26)より高い。甲類(B)(C)式において焦点化されるのは時間量表現であり，従来の文法記述に従えば，こうした動作の持続時間量を表す時間量表現は数量補語，またはその下位分類としての時量補語である。

一方乙類(B)式は動作主の経験や経歴世界を描くものであり，

(32)王老师教汉语三十年了。

は表現意図に関する限り

(36)王老师教汉语经验很丰富。

に通じるものが有る。(36)は大主語“王老师”が“教汉语/经验很丰富”という主述句を述語とする主述述語文と解釈することができ<sup>2)</sup>，これと同様に理解すると，(32)も大主語“王老师”が“教汉语/三十年了”という主述句を述語とするという理解の可能性を残すことになる。主述述語文の述語となる主述句は大主語の経験世界や属性を描くものがふさわしく，“等车一个小时”のような個別の動作における客観的に計測できる時間量はふさわしくない。また，(18)のような否定形式も主述述語文という解釈に受容される。

乙類(C)式は甲類(C)式と同様基準時点における新事態を認定しており，“等车”“教汉语”のいずれも受容可能である。

丙類の特徴は(C)式への不適合である<sup>3)</sup>。(C)式は，まず「動詞＋名詞」によってある動作を提示し，「動詞＋“了<sub>1</sub>”＋時間量＋“了<sub>2</sub>”」によって基準時点において「動詞＋“了<sub>1</sub>”＋時間量」が新事態として認定できることを表している。この情報機能の解釈に従えば，甲類・乙類においては“等他”＋“等



了一个小时了” → “等他等了一个小时了”，“教汉语” + “教了三十年了” → “教汉语教了三十年了” という派生関係を仮想することも可能である。これに対し，丙類では，“来日本” “来了一年了” 共に成立するにも拘らず，“\*来日本来了一年了” は不自然である。

先の乙類の考察において，(32)を主述述語文と解釈する可能性を示した。これに対し，丙類では，大主語の経験世界や属性という解釈は成り立たず，“来日本” “一年了” はいずれも客観的事実の記述である。本稿は，“来日本一年了”を連動構造の一種と考えたい。これによれば，(35)は

(37) 王老师来日本工作了一年了。

と同種の文法構造であり，(35)は“来日本”と“来了一年了”の間に同語反復が有り，排除されることになる。先にも述べたように，“等了一分钟了” “教了三十年了” はそれぞれ基準時点において“等了一分钟” “教了三十年” という新事態が認定できることを表している。(C)式を用いた(27)は“等他”という事件に関して“等了一分钟”という新事態が，(33)は“教汉语”という事件に関して“教了三十年”という新事態が認定できることを表している。これに対して，“来了一年了”は，基準時点において“来了一年”という新事態が認定できることを表しているのではない。これは“来了” + “一年了”と解釈すべきで，“来了”という新事態の後に“一年了”という新事態が続いている。正確に述べるなら“来了一年了”自体が“来了” “一年了”によって構成された連動構造であり，三個の要素によって構成された“\*来日本来了一年了”は“来日本”と“来了”の間に同語反復を生むことになる。なお，(34)において“了<sub>1</sub>”を付加した

(34') \*王老师来了日本一年了。

が排除されることは，連動構造において前半の動詞が“了<sub>1</sub>”を排除する傾向の一環として理解することができる。“了<sub>1</sub>”の必要度が高い動詞を用いた場合，丙類(B)式も“了<sub>1</sub>”を受容する可能性を残している。

(38) 胡五爷死了女人多年了。(《皇城旧事》)

以上の解釈は，(C)式の文法的意味の理解に対しても重要である。先に示した刘月华等 2001 は「賓語を述べない」と意味が不明瞭な場合通常動詞を反復させる」と指摘していた。その一方で，数量表現によって賓語となる名詞を焦点化する以下のような言い方は避けられる。

(39) \*张三看一本书看了一个小时了。

(39)が不自然であることは，(C)式が時間量表現を焦点化する文法構造であることを示している。(C)式は，前半の述語動詞の賓語となる名詞に新情報を含める可能性を残しつつも，前半の「動詞 + 名詞」を背景として，後半の「動詞 + “了<sub>1</sub>” + 時間量 + “了<sub>2</sub>”」によって時間量を前景情報として突出させる文法構造である。この情報機能が時間量表現における自由度を高め，それが(27)(31)の成立を支えているものと考えられる。

## 5. おわりに

本稿では「動詞 + 名詞 + 時間量 + “了<sub>2</sub>”」という文法形式に対し，時量補語 (甲類(B)式)，主述述語文 (乙類(B)式)，連動構造 (丙類(B)式) という三種の解釈を示し，それらと(C)式の対応関係を考察した。これを第 2 章の末尾で示した問いへの解答としたいが，それでもなお，なぜ名詞の種類を条件として甲類と乙類の差異が生じるのかという問題が残されている。また，連動構造説は，以下の二例の差異をどのように説明するのかという新たな問いを生む。

(40) 王老师回家已经一个小时了。

(41) 王老师回家已经一点了。

(40)は基準時点 (多くは発話時点) における“已经一个小时”という新事態の発生を表し，(41)は“王老师回家”が発生した時点における“已经一点”という新事態の発生を表す。両者を連動構造と認定した場合，連動構造において異なる基準時点の設定が許されるという結論に至る。もし一方または両者

のいずれもが連動構造ではないと認定するなら、その有力な根拠を示さなければならない。

第一の問題を解決する糸口としては、旧情報の色彩が強い人称代詞は(A)式に適合できず、(B)式が義務的に用いられることが一つの有力な原因として考えられる。第二の問題については、連動構造・多動詞構造における基準時点の設定に対する包括的考察が必要であり、これは今後の課題としたい。

#### <註>

- 1) 否定表現の後ろに「有」＋時間量＋“了<sub>2</sub>”を置くこともできる。

我没看见她有两三年了，直到几个月以前才又见到她。(《雾都孤儿》)

この例を甲類・丙類のいずれに分類すべきか判断が難しい。

- 2) “经验很丰富”も主述句であるため、(36)は二重の主述句により構成された主述述語文ということになる。

- 3) 吕文华 1995: 285 は本稿丙類(C)式に相当する用例として以下のものを挙げている。

这项建筑工程开工都开了三年了，还没完成。

这个区断电断了一个小时了，到处一片黑暗。

公布分房方案已经公布了三天了，群众议论纷纷。

これらの用例は事実上工事を継続した状態、停電が続く状態、住居配分計画を公表中の状態を表しており、時間量表現は状態の継続時間量を表している。

#### <参考文献>

奥水優・島田亜美『中国語わかる文法』大修館書店2009

戴浩一「以认知为基础的汉语功能语法刍议（上）」『国外语言学』第4期，1990

刘月华 潘文娛 故幹『实用现代汉语语法（增订本）』商务印书馆，2001

石定栩「动词后数量短语的句法地位」『汉语学报』第1期，2006



